

平成29年度 第2回御殿場市総合教育会議

日時

平成29年11月22日（水）午前10時

場所

御殿場市役所 5階大会議室

出席者

| | | | |
|-------|--------|------|-------|
| 御殿場市長 | 若林 洋平 | 教育長 | 勝又 将雄 |
| 教育委員 | 勝又 英和 | 教育委員 | 佐藤 朋裕 |
| 教育委員 | 芹澤 えつ子 | 教育委員 | 大西 孝明 |
| 教育委員 | 勝又 綾子 | | |

陪席者

| | |
|---------|----------|
| 教育部長 | 教育総務課長 |
| 学校教育課長 | 社会教育課長 |
| 学校給食課長 | 教育総務課副参事 |
| 教育総務課主任 | 教育総務課主事 |

傍聴者

6人

次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項
 - (1) 平成30年度の教育予算について
 - (2) 「真の子育て支援 日本一のまち」をめざす御殿場市の教育への取り組みについて
- 5 閉会

1 開会

教育総務課長（進行）

本日はお忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。
定刻になりましたので、ただ今から平成29年度第2回総合教育会議を開催します。
開会にあたりまして、初めに市長からご挨拶をお願い申し上げます。

2 市長挨拶

市長

皆様、改めましておはようございます。

本日は平成29年度第2回総合教育会議ということで、お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また傍聴の皆様におかれましても、お忙しい中でわざわざ来ていただきましてありがとうございます。

この総合教育会議も回を重ねてきて、内容が充実していると私自身は自負しているところではありますが、特に今まで教育の現場と行政の現場が分かれていた部分があったと思いますが、制度が変わってからそれは一体にすべきだろうということで、もちろん御殿場市の場合は言われるまでもなくそのようにやっていた訳ですが、常日頃申し上げてまいりましたとおり、総合教育会議の中で学校の教育がメインとなってくる訳ですが、幼稚園も含めて、教員の皆様の立場を確立するということが非常に重要なことであって、それを守ることが実は行政の役割じゃないかなと思っています。

ですから、今回こういった総合的な教育会議という面においても、教育現場がやるべきこと、それをサポートする行政側がやるべきことをお互いがお互いを良く理解してやっていくということが一番重要だと思っていますので、そういった意味で教育委員の皆様には、色んなご意見をいただきながら合わせていくということが大事だと思っていますので、よろしくお願ひしたいなと思っています。

前回の時に、大事なものは大事に配ってくれと、その通りだということで、教育委員会という行政側も事務的な部分においても配慮が足りなかったとは思っていますので、そこはまたしっかりと指導はさせていただいたと思います。

今後においても、そういったものは市民の皆さんに理解していただくということだと思いますので、決して子どもや今学校に通っている子どもがいる家庭だけでなく、市民総がかりで子育てをしていくということを御殿場市が掲げている以上は、そのことをまず市民の皆さん全員に理解してもらおうということは大事なことだと思うので、それも含めて情報発信の仕方は非常に難しいと思いますが、でもそれが伝わらなければ意味が無いし、伝わらなければやっていないことと極端な話同じになってしまうので、そこを一つひとつ丁寧にやっていくことも大きな反省点だったと思いますので、改善してやっていきたいなと思っています。

今日もいくつかの議題があるとは思いますが、いずれにしても申し上げましたとおり、大事なことは融合して、しっかりと情報共有して、それぞれの役割を果たしていく中で行政側としてもサポートしていく。

最終的な目的としては、先生にも様々な人がいるとは思いますが、それと別と

して、教師は教師としての立場というものを我々はしっかり守っていく、そして常日頃から私が言うとおりの威厳というのは威張る威厳ではなくて、先生の威厳というものを取り戻すということが教育にとって、私は大事なことだと思っていますし、先生が先生の本来の仕事ができるようにすること、これは教育現場に限らずどの分野でも今叫ばれていることだと思うんですけども、そこを取り戻すことが一番重要なことであって、実際に教育の内容がどうかとなった場合には、御殿場市の教育というのは外に誇れることだと思いますので、今日のテーマにもありますけども、真の子育て日本一にも結び付いていることだと思いますので、その辺をぜひ今日も屈託のないご意見の中で審議できればいいかなと思いますので、短い時間ではありますが、よろしくお願ひしたいと思います。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、教育長よりご挨拶をお願い申し上げます。

3 教育長挨拶

教育長

おはようございます。

今お話しがありましたけども、今年度第2回目の総合教育会議ということで、新しい制度に入りまして、こういう会議があるということは御殿場市にとってみても地道な教育と言われながらもそれなりの発信ができる場であるなと思っておりますので、ありがたく思います。

学校関係ですけども、あと一ヶ月ぐらいしますと、新3学期制の2学期が終了となるという時期にありまして、文化スポーツのあらゆる面で子どもたちの活躍が色んなところに報道されていて、大変嬉しいなと思っております。

つい先般の県の駅伝の中学校大会もそうでしたが、全国大会もかないませんでしたけども、そこに行くまでの一生懸命の努力と結果はすごいなと思いますし、そこに参加した子どもの何人かは市町対抗駅伝の方にも出ますので、そこでまた活躍が期待できるというところで、小学生、中学生、高校生、成人という流れの中で、子ども達の活躍が元気の源だろうと思いますので、そういった意味では子ども達の活躍をサポートできる教育行政でありたいなと思っております。

この会議は1回目と2回目でメンバーが少し変わっておりまして、新しい教育委員さんが一人参加されておりますので、その新しい教育委員さんを含めた総合教育会議となっておりますので、よろしく願いいたします。

教育総務課長

教育長ありがとうございました。

4 協議事項

(1) 平成30年度の教育予算について

(2) 「真の子育て支援 日本一のまち」をめざす御殿場市の教育への取り組み
について

教育総務課長

本日のテーマは、(1) 平成30年度の教育予算について、(2) 「真の子育て支援 日本一のまち」をめざす御殿場市の教育への取り組みについての2点となります。

1点目の教育予算についての意見交換をいただくにあたりまして、教育部長から当市の教育予算の動向について、説明させていただきます。

それではよろしく願いいたします。

教育部長

それでは、私から今後の教育予算のご協議の参考といたしまして、年度別の教育予算についてご説明させていただきます。

着座にてご説明させていただくことをお許してください。

それでは、資料1をご覧ください。

この資料は、平成26年度から平成28年度は決算額、平成29年度については、予算額を参考として記載しております。

最初に、上段の表、教育費全体でございますが、この表のみ、万円単位となっております。平成29年度の予算額は41億円余、当初予算額に占める割合は11.1%でございます。表には平成26年度以降を記載してございますが、金額の増減は主に、学校施設の改築等ハード事業によるものであります。

このハード事業でございますが、平成27年度で学校施設の耐震化が全て完了したため、昨年度からは、校舎やプール等の老朽化に対する改築、改修事業を実施しております。

次に、10款1項3目教育総務費・教育指導費につきましては、発達障害児等の補助、教員の多忙化解消など学校教育の充実を推進するための事業でございますが、決算額等は年々増加しております。表の下から次ページにかけて、事業の詳細を記載しておりますが、この中で平成29年度に予算額が増加している3つの事業について、ご説明させていただきます。

一番下となりますが、学校教育充実事業は、知的、情緒面で障害を持つ児童・生徒

が在籍する特別支援学級の補助者の2名増によりまして、増額されております。

次のページをお願いします。

上から3番目の表となりますが、魅力ある学びづくり推進事業は、教員の多忙化解消のため、大規模校に事務支援職員を配置するものですが、御殿場中学校に1名配置したことにより、さらに増額されております。

4番目の表となりますが、教育指導センター事業は、教員の大量退職に対応した若手教員や、講師の指導力向上のための事業でございますが、教育力に関する調査や提言に向けた研究等、センターの事業充実を図るため、指導員2名増によりまして、増額されております。

また一番下となりますが、10款2項1目小学校費学校管理費は、小学校の施設備品の整備、施設改築、改修等に関わる経費ですが、御殿場小学校、朝日小学校のプール本体の整備が完了したことにより、減額となっています。

次のページをお願いします。

特別支援学級諸経費は児童数が増加傾向にありますので、これに伴い決算額等が増加しております。

10款2項2目小学校費・教育振興費は、平成28年度末に更新した小学校2校の教育用コンピュータ約200台のリース料の支払いが、開始されたことにより増額となっております。

小学校扶助費に関しては、学用品や給食費等に係る就学援助の予算であります。離婚等により低所得となる世帯の増加に伴いまして、援助費が年々増えているものがあります。

次に、中学校に関する予算になります。10款3項1目中学校費・学校管理費については、平成27年度、平成28年度に大規模な施設改修がありませんので減額となっておりますが、平成29年度は南中学校校舎改修工事の着手により増額となりました。また、西中学校校舎改築事業については、付帯する一部解体工事等に着手いたします。

次のページをお願いします。

特別支援学級諸経費ですが、小学校と同様に生徒数の増加に伴い増額となっております。次に、10款3項2目中学校費・教育振興費ですが、平成26年度は小学校、平成27年度は中学校の教科書改訂等に伴い、決算額等が増加となっておりますが、平成28年・29年度はこの分がなくなっております。

次に、中学校扶助費の増額は、小学校同様、就学援助の対象となる生徒の増加に伴うものです。

次の10款5項1目社会教育費・社会教育総務費は、生涯学習の推進に関する事業ですが、昨年、市民会館の改修工事により実施しなかった御殿場 DONDON の開催を今年度としたため、増となりました。

次のページをお願いします。

青少年対策事業は、青少年の健全育成の推進に関する事業ですが、隔年実施である、青少年のための科学の祭典の開催に伴い、増減があります。

次に、10款5項2目社会教育費・文化財費は、平成28年度に実施した御殿400周年、阿部雲の展示事業の完了により減額となっております。

次の10款5項3目社会教育費・図書館費は、グラフの刻みにより大きく変動したように見えますが、金額については昨年度と大きな変動はありません。

次に、10款5項4目社会教育費・芸術文化振興費の市民会館ホール等改修事業は、平成28年度からの2か年の継続事業で、昨年度は工事費の4割を前払い金として、今年度は6割を支払うものです。

次のページをお願いします。

10款6項1目学校給食センター運営費は、図書館費と同様、グラフの刻みにより大きく変動したように見えますが、金額については昨年度と大きな変動はありません。

以下、6ページから7ページにかけて、その他、平成21年から平成29年までの児童生徒数の推移を、参考資料として添付しています。

以上で、説明を終わります。

教育総務課長

ありがとうございました。それでは、これより各教育委員の皆様から教育予算に対するご意見等をご発言いただくわけですが、次第では平成30年度の教育予算と記載してございますが、来年度というより今後の教育予算の考え方等についての忌憚のないご意見をいただきたいと存じます。その上で、市長からもお考えを伺いたいと存じます。

教育委員

おはようございます。座ったままで失礼させていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

まず私の方からは、さきほど教育費のお話が出ましたが、その中でも比較的大きな割合を占めるハード事業、特に施設整備に関しまして、ちょっとお話をさせていただきたいと思います。

御殿場市の幼保小中の校舎等の施設で、プール等の屋外施設を除きまして、現在御殿場市では132棟の建物がございまして、この132棟の建物の中に、昭和56年度の建築基準法によります旧耐震基準の建物が27棟ありまして、これは静岡県内でも本当に早い方ですが、御殿場市では早急に着手していただきまして、全ての建物が耐震診断並びに耐震補強等を行いまして、全ての建物が新基準に合致している建物になっているので、子ども達が安心して学習できる環境の整備を整えていただいております。

す。これは大変ありがたいもので、感謝しております。

さらに、1970年代の建物が17棟で、これですと約40年近い年数という形になります。80年代の建物はさらに増えまして50棟が存在しております。そうしますと、30年以上の建物は67棟という形になりまして、約132棟の内の過半を占める割合となっております。この132棟の中には、放課後児童クラブに使われている木造の平屋の建物が12棟含まれておりますので、それらを除きますとちょうど120棟の鉄筋コンクリートや鉄骨造の建物になろうかと思えます。

ところが、鉄筋コンクリート造の建物は比較的耐用年数が高い部類にはなりますが、さすがに120棟の建物がございますと、もしも改修ではなく改築という観点から見ていきますと、1年置きに改築していったとしても、数字上で240年かかってしまうこととなります。

そうしますと、いかに鉄筋コンクリートの耐用年数が高いといいますが、ちょっと240年というのは無理がある。そうなりますと今後、学校施設の試算を維持管理していく上で、120棟もの建物を長い年月をかけて維持管理していかなければならない。やはりある程度、綿密な計画を打って、常に診断等を繰り返しながら、改修や改築等を計画に沿って進めていかなければ、なかなか教育の環境の充実というのも難しくなるのではないかなと思えます。

ただ、さすがにこの棟数からしますと、この教育費を踏まえて見た場合に1年おきの改築というのは、ちょっと無理がある数ではないかなと思えます。

とはいえ、この校舎施設そのものは今後も無くてはならないものになりますので、この辺のところを今後において負のスパイラルに入らないように、子どもの将来を100年後、200年後を見据えますと、今から対応していかなければならないのではないかなというように考えますが、その辺はどのようにお考えでしょうか。

市長

今、色々なお話をいただきましたけれども、単純に計算すると240年という話になってしまうと思うんですが、逆にそうではなくて、まずは施設を整備しようという中で、少なくとも校舎は子どもたちが安心安全の中で、これはどんなことがあってもということで、かなり前倒ししてやったというのが事実です。これは教育現場での子どもたちの安心安全も然る事ながら、プラス内需拡大のためにやったということも正直あります。そういう部分も含め、今後120棟ということではあるんですけども、おそらく隔年で1棟ということではなく、長寿命化計画というのはどこでも同じで、市の他の施設もあるんですけど、そういうことで全て計画に則ってやっていくということでやらせていただくことになるとは思うんですが、かえって1年おきに1棟ということではなくて、実際にはもっとやると思えますので、現実的には毎年3棟ぐらいやるんじゃないかなということになると思えますので、今現状としては、たまたま校

舎とか色々なものを直したばかりなので、そういう計画は無いというのはたまたまそういうことになっていると思うんですけど、そこは当然今までの予算の流れを見てきたとしても、大きな面は校舎ですから、それ以外のことであれば順次で、もちろん平成26年、27年、28年、29年、30年で含めて見ていただければお分かりのとおり、かなり多くの事業をやるのがしっかり計画を立ててやっていきますので、むしろ240年ではなくて、ちゃんとした財源でやっていけるもの等、実際にはそういうことだと思いますので、その辺は安心していただければと思います。

それよりも本当に大事なことは長寿命化で、しっかりと大事に使えば長寿命化できるものがあれば、その部分は古いからダメということではなくて、古くても安全性のあるものはしっかりと長く大事に使うことだと思いますので、その辺はご理解いただければありがたいかなと思います。

いずれにしても、学校の現場だけでなく全ての公の建物というのは、それに則ってやっていかないと、それこそ太刀打ちできない状況になってしまいます。いくら御殿場市の財政が良いといたって、そんなものは吹っ飛んでしまいますから、そこはしっかりと計画に則ってやるし、それは教育現場についても例外ではないというご理解が一番ありがたいかなと思います。

教育委員

よろしく願いいたします。

私はこの予算につきまして、感謝と感想をお話させていただきたいと思います。

いつも市長さんは先生方や子どもたちに向かって、色々なエールの言葉を出されていますけれども、先生方が先生らしくいられるように、教員の立場を確立して本分の仕事がしっかりできるように学校と行政でお互いに課題を共有し合って、教育を受けている子どもたちが幸せに力をつけていけるようにと以前お話くださったことが今でも私の頭の中に残っております。

今でも教育界は大変で、学習指導要領の移行期にありまして、これまでも総合教育会議の話題の中で挙げられてきましたけれども、教育長はマンパワーが必要なんだと仰ってしまっていて、私もそのことに共感しておりますが、そういう方向性が予算の中に形になってみていくということが、大変ありがたいなと思っております。

例えば、先生たちが世代交代していく中で指導力向上のために教育指導センター事業にこれらの予算がしっかり付けられている。また多忙化解消のための支援員も毎年確実に拡大してきていただいている。子ども達が発達に色々な課題を持っていて、生活や学習が困難だというお子さん達を養って助けるためにも、特別教育支援員の増員を予算として付けていただいているということで、子ども達への愛情というか、教育の充実を願う市の思いというのが予算の中にも感じる事ができるというのは非常にありがたいことだなと思っております。

こういう思いが現場の先生方にも伝わって、子ども達の教育のためにがんばろうという力になっていくんじゃないかなと、そうなるありがたいなということで一層これからも充実していただきたいなと思っております。

新しい学習指導要領では、小学校5、6年生に英語が教科として、3、4年生には外国語活動、中学校には今までも道徳が入っていましたが、特別な教科として位置付けられて入ってくるということで、先生方のお仕事も変わっていくんじゃないかなって現場の最前線にられる先生方は、そういう新しい課題の準備や研修に追われているんじゃないかと思えますし、そういう中でこれからもぜひ子ども達に返っていく支援としてありがたいと思っておりますので、今後もよろしくお願ひしたいなと思ひで感想を述べさせていただきました。

感謝申し上げます。ありがとうございます。

市長

非常にありがとうございます。

そのことは、教育部長が頑張ってくれましたけども、この資料を見まして、こんなに払っていたんだなと思ったぐらい、先生方もそうですし、教育委員会の皆さんもそうですし、教育部長をはじめとして教育部職員の熱心な部分が、うちの財政を動かしたことだと思いますので、実はそういった面からみると、本当に大事なことは、先ほどお話いただいた命を守るという意味においては、施設を守るということがすごく大事なことなんですね。それは優先的にやらせていただいたんですけども、正直そういう部分も財産区の協力と理解があって、またALTもそうなんですけど、かなりそういった意味では、御殿場市というのは恵まれているんだなと。これは本当に財産区のおかげっていうのはあると思いますが、だからといって教育現場から財産区頼むよというのではなくって、財産区があることによって、今かなりそういった施設面であったりとか、一部のALTとかそういうことも含めて、充実ができていないかなと思ひます。

これは改めて感謝すべきだと、私は思っています。それはお父さんお母さん方も、特に新しく御殿場に住まわられているお父さんお母さんはなかなかそういうことを分かっていないと思うので、一見すると財産区は自分達のことばかりしていると取られがちですけど、本当はそんなことなくって、全ての小中学校で富士岡を含めて、直接的にお金が入ってなくても、そのことによって、市の一般財源が回せるということが事実ですから、そういうことを考えたときには、まずそこのところありがたいなとここで再度確認すべきかなと思ひます。

大事なことは、感謝をいただいて嬉しくてしょうがないのですが、10款1項3目が一番重要であって、私がこの資料を見て、よくぞ一番初めに持ってきてくれたなと思ひますが、要は教育の支援事業ですよ。ここが非常に重要だと私は思ってお

ります。

そういった意味において、マンパワーですよ。実は、静岡県全ての自治体は、自分たちが厳しいものでやっぱり県にお願いするしかなくって、それはどこに重きを置くかによっては、ある程度自分たちで頑張れることがあると思うんですよ。そういった意味では、そういった子育て支援って医療費みたいに見えることもあるんですけど、実はここなんです。非常にここに力を入れていることを、意外と市民の皆さん知らないんで、ぜひ今日を機にここの部分をお父さんお母さんに分かっていただきたいです。外国人児童の指導であったりとか、教育の相談員であったりとか、特別支援であったりとか、発達障害であったりとか、先生のために、多忙化解消のために、結果的には先生ができるだけ子どもたちに接することができる時間を増やすために、そういうことをしているということがあったりとか、教育指導センターであったりとか、なかなか他の自治体ではやりたくてもできない。厳しいだけではなくて、優先順位を付けていった場合に、我々は今徹底的に教育というか子育て支援の中においても、ただお金を渡すということではなくて、人間力を高めるというのが、御殿場市の子ども達が将来に渡って力をつけて羽ばたいてもらいたいという意味での子育て支援ということを非常に重要視しているということを先生にご理解いただけたら大変嬉しいです。これをぜひ御殿場市民の皆さんに理解していただきたい。それだけやれている自治体が無いといたら語弊があるかもしれないけど、できないという事実と重要視しているか、していないかという差はあると思うので、そこが御殿場市のいじめ防止であったりとか見えにくい予算であるかもしれないですが、子育て支援に繋がっているということをぜひご理解いただきたい。

その上での医療費の補助、給食費、3人目はどうなんだというところはありますけど、それだけやっても全く意味ないんですよ。それだけやったら、確かにバラマキですけど、そういったものがあつた上で更にお母さん方を応援しますよということの一つ目に見えて分かり易いものも必要かなと思ってやるだけであつて、実際に大事なのはここだと思っています。

お金をかけることが全てじゃなくて、いじめ防止や市民総がかりで子どもを見ていくんだということを、決して全てお金がかかるかと思ったらそうではないと思うんですよ。その辺がまずは市民の皆さんにこういったことを理解していただいて、そういうことが御殿場市の誇りに繋がっていけばいいなと。そういうことになると、先生の立場も非常に良くなる。先生方が生き活きとやれるということにも繋がっていくと思うので、本当にありがとうございました。

教育総務課長

ありがとうございました。ただいま、市長から大変熱いお言葉をいただきました。本日用意しております2番目のテーマにも一部入るかと思っておりますけども、この件に関

しまして、皆様方からいかがでしょうか。

また2番目のテーマにも一部重複する部分もあろうかと思しますので、後ほど何かございましたら、お話をお願いしたいと思います。それでは次に移ります。

教育委員

よろしくお願ひいたします。

この時期、各学校では就学児検診があったりと既に新年度にかけて動き始めているようです。私も子どもが中学校に上がるため、中学生のお子様を持つお母さん達に部活動について教えていただく機会が何度ございました。現在、部活動の活動日数や時間に満足している方もいれば、短すぎるという意見も耳にします。既に、小学校でスポーツ少年団やクラブチームでプレーしてきた子どもを持つ親からは、冬場や長期の休みの活動時間が今より減ってしまうことに対して、不安もあるようです。そういった理由からか、フリー部という形を取り、クラブチームでプレーすることを選ぶお子さん達も増えているように感じます。部活動を通して、子ども達は信頼関係や生徒同士のコミュニケーション、また自主性を学ぶことができる大切な場所だと考えております。しかし、指導して下さっている先生方のしっかりとした保障がなく、先生方の熱意によって支えられているのも現状のようです。

新聞を読んででも良く目にする教職員の多忙化ですけれども、特に中学校が深刻で、部活動指導が大きく占めているようです。このような話を聞き、将来的には部活動指導員を配置することで多忙化の解消、または指導員と先生方の連携により、生徒間のトラブルにも気付きやすくなるのではないかなと考えます。特に、中学生では同級生の交流だけでなく、先輩や後輩といった縦のつながりもできるため、部活内での生徒間のトラブルに気付くためにも制度化された際には、積極的な配置がお願いできたらなと思います。

今、中学校の部活を例に挙げさせていただいたんですけれども、先ほどもお話にありました、既に力を入れて下さっている教育指導センターや魅力ある学びづくり推進事業などの更なる充実により、先生方が児童や生徒に向き合う時間が増えることにつながると思います。

私達親は、朝に子ども達を行ってらっしゃいと送り出した後、帰宅するまで近くで見守ることができません。登校して下校するまで一番近くで見守って下さる大人である先生方が、先ほど市長もおっしゃっていた先生が先生らしくいられる環境で、アンテナを高く張り、子ども達が安心安全に過ごせるようにご指導いただけることをお願いしたいと思っております。

保護者の立場でどのような学校を望まれているか市長の考えを伺いたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

ありがとうございました。これもなかなか市長会で話題に上がりますけれども、部活っていうのがどうなのかという分岐点に来ていると思います。というのは、逆に言うと、私は野球連盟で呼ばれて、サッカーなんかもそうなんですけども、やっぱり学校によってはぎりぎりの生徒の数でチームを作ったり、下手するとチームが無い学校があったりだとか連合で学校合わせてチームを作ったりだとか、私達が子どもの時には想像もつかないような現状があるということなんです。それは、一つはやっぱりクラブチームがあったりとか、子ども達が選択する場合もあるのかな。かといって、学校がやらなくていいのかというと、学校で戦えというのもあると思うんで、そうすると先ほど教育長からあった通り、御殿場の強い駅伝ですよ。各中学校が上位に食い込んでいて、惜しかったんですけど、前は富士岡中学校が常連で全国大会に出て、全国大会でも非常に良い成績を修めていたというのもあったと思うんですが、これはどうしたらいいかというのは究極的に考えるべきだと思うんですよ。

部活がなぜ必要か。それは、委員がおっしゃった通りだと思うんですよ。色んな要素があって、先輩後輩の関わりだとか先生との関わりだとかあって、これは絶対必要だと思うんですよ。じゃあ、どうして残していくか考えた場合に、指導員しかないと。この指導員というのも安定的な指導員というか、その学校の先輩だったりとか想ってくれる地域の方だとか、私はもう一步踏み込んで、本当はクラブチームがそこに入ってきてくれるのが一番いいんじゃないかなと思うんですよ。クラブチームを学校区単位でやってもらうとか、新しいことをちょっと考えないと、選手の見合いにも見えてしまう。でも、本当はあの中学校にあんなに良い選手がいるのに、クラブチームに入って部活には入らないからこの中学校は弱いという変なことになっちゃっている。その辺りが、どこで活躍するかって子どもにとってはどこで活躍してもいいと思うんですけど、クラブチームの中でも先輩後輩っていうのもあると思うんですが、やっぱり学校というのは一つ大きな看板としてあると思うので、そういった意味においては、駅伝だって陸上部でやってるかということと全部がそうではなくて、野球部やサッカー部も入っているわけですよ。足の速い子を集めてやっている。そういうのも一つの手ではあると思うんです。だから、全部をきちっとしようとすると、また人が足りなくなってしまうので、これは県を含めてですし、国もそうだと思うんですけども、クラブチームの在り方とか色んな子どもたちの選択の在り方を全体的に考えないと解決できないと思うので、その中で要望することってあると思うので、その辺はちょっと考えていきたいなと思います。本当に現場で考えたってしょうがないんじゃないかなと。

この間、西中のブラスバンドに行かせていただいたんですけど、私が想像していた以上でびっくりして、あのブラスバンドというかマーチングって市民の皆さんってあんまり見たことないんじゃないかな。あんだけ頑張ってるあんだけ素晴らしいのに、そ

ういった機会も無いっていうのも残念だなんて思うし、もちろん全ての部活に言えることなので、なかなかそういうことって全部見せられるということではないかもしれないですけど、あれは体育館かどこかで見せたいなと思いました。本当に素晴らしいと思いました。そういうことであって、じゃああれだって部活の先生だけかといったら、当然指導者もいるでしょうし、そういうことも融合してやっていくことが一番いいんじゃないかなと思います。

ちなみに、私が中学校に通っていた時に、社会科の先生が野球部の監督だったんですね。年間に2回しか来ませんでした。やりもしなかった。先生来なくていいよ。挙句の果てに、最初の年のレギュラーは社会の点数で順番付けられましたからね。それは違うだろうと思いましたけど、意外にそれはそれで弱小チームでしたけど、強くなるためにはとか、今考えると先輩後輩もそうでしたけど、特に同級生とかは結束力が強くなったなと思い出もあるし、もちろんそれは先生がいたら更にいいんでしょうけど、そういう意味では子ども達は自分達でできることがあると思うんですよね。だから、何でもかんでも、やっぱり学校に頼るばかりではなくて、核として学校の立ち位置はあるとは思いますが、融合してやっていくしかない。

これは先生では、絶対無理です。これ以上、先生に負担をかけるなんてことは、ちょっと考えづらい。それが、負担に感じる先生とそうじゃない先生もいるわけですよね。疲れているけど、子ども達が頑張っている姿を見ているから燃えちゃう先生もいると思うので、そういう部活は強いと思います。そういう部活は、またその先生が異動するとその学校が強くなって行って、そういう問題も起きないわけですね。それは実質的に先生が負担を感じていなければですよ。

でも、それは個人によって違うでしょうし、物理的に本当に寝ている暇がなかったら倒れちゃいますから、その辺を考えて行って、ぜひこういう機会を作っていただいて、実際の現場と私自身お話ししたいことがたくさんあるので、なかなか見えていない部分もあるでしょうし、親御さんからすると私の子どもはどうしても何とかサッカーでやりたいんだとか色んな思いがあると思うんですよ。その中で部活っていうのがどこまで出来るかっていうと、そこはまた繰り返しになりますが、融合しないと私は思っております。その方法を、今からちゃんと確立していくことが将来的に向けても大事になってくると思いますので、いい問題提起をさせていただいてありがとうございました。

教育総務課長

ただいま市長から経験談を交えまして、新しいアイデアなども出していただきました。他の皆さんもこの件に関してよろしいでしょうか。それでは続きまして、次の方にいきたいと思います。よろしく願いいたします。

よろしく申し上げます。

私は、次の世代を担う子どもの健全な育成推進の面から、教育予算の中においても少しでも手厚くしていただきたいと要望したいと思います。

子どもの健全な育成は、市民の誰もが必要不可欠なことだと思っています。御殿場市では、学校、家庭、地域の一体感は伝統的に守られてきていると思います。

そして、子ども条例および子ども条例行動計画が今回示されました。社会総がかりで子どもを育てるというのが、地域の各種団体等においても、今まで以上に浸透してきたかなという思いであります。老人クラブの会員の誰もが今の少子化の認識は承知しておりまして、子どもは将来の宝だと口々に老人クラブの会員の人も言っております。御殿場市の老人クラブは現在56クラブあって、5200名余の会員がいます。健康寿命、明るく、楽しく、元気よくをモットーとして、事業は連合会、各地区、各区の組織で、それこそ活発に遂行しているのは、皆さんご存知の通りだと思います。

そんな観点から高根老人クラブの活動として、高根小学校の地域交流行事を行いました。その一部を紹介させていただきます。

11月1日に土曜日の午前中から行ったわけですが、これは地区の老人クラブの皆さんと交流を深めることが狙いであります。それには昔の遊びを通して、お年寄りの持つ技すなわち技術を、子ども自ら見つけて、それを繋ぎ伝えることを主な目的ということで、高根小学校児童約250人を対象に行いました。

この行事もまず学校側がリーダーシップを取りまして、地域の老人クラブの会長を講師として、実施したわけです。各老人クラブの会長も子どものために役立つのであれば、どんなに忙しくても出るよと反対する人は一人もいませんでした。その辺は阿吽の呼吸といいますか、速やかに実行することが決定しました。種目も11種目昔の遊びを選び、独楽、ベーゴマ、囲碁、将棋、カルタ、百人一首、竹とんぼ、グラウンドゴルフ、竹馬、折り紙等、これらを学校の意向で8箇所に分かれて、それぞれの会長が講座責任者として任されて、子どもと共に楽しく一緒に一時を過ごすことができました。子ども達から元気ももらって、それこそ健康増進に繋がるわけであります。私は、独楽とベーゴマの講師として依頼されたわけであります。60年以上昔に、独楽を回していたわけですが、児童の前で回せるかなという不安もありましたが、最初1、2回回しても回らないですよね。昔の独楽と削り方が違ったり、紐も今の紐とちょっと違ったり、最初は滑ってしまう。ところが、水をくぐらせると紐が滑らないということを教えながら、次第に技術が蘇って成功し、その後は一度も失敗なく、講師としての面目を保ったわけであります。

回せないお子さんがたくさんいます。だけど、ほとんどの児童が回す技術を工夫しながら、自分で体得した方法で楽しんでおります。児童たちには、60年も昔に覚えた技術が一度覚えたら60年経ってもこれから生涯忘れないということも分かって

らいたいと言いました。そんなところで、日常においてもお年寄りの持つ良い技術を、自ら掴み取ることの重要性を理解していただいたわけであります。その技は生涯役立つことも事例を挙げて論じます。

今は予算の話ですが、平成30年度の予算であります。御殿場市の老人クラブの連合会会長からもお願いがあったと思いますが、高根地区の老人クラブの事業の一部をここで紹介させていただいたわけですが、他の地区でも色んな工夫をこらしてやっていると思います。子どもの健全育成事業の支援として、市内の老人クラブに限らず、活発な事業や支援をしている諸団体に予算の配慮を賜りたいと思います。先ほどの高根地区の老人クラブと学校交流事業についても、所見をいただきたいと思います。

市長

まさに市民総がかりの子育て支援というのは、そういうことだと思うんですね。老人クラブの皆さんには、その点の予算については了解しておりますので、孝行していただければありがたいなと思います。

これは予算のお話ばかりではなくて、負担をかけるわけにはいかないですから、その部分はこちらの負担をしたとしても、老人クラブや婦人会、子ども会といった団体がしっかりしているのは正直御殿場市だけなんです。本当に近隣市町もほとんど婦人会壊滅状態、子ども会壊滅状態、老人会は多少あるかもしれないですけど、一番いい団体が御殿場市においても老人クラブだとは思いますが、私いくつかの場所で何度もお話していると思うんですが、一番いいのは本当は放課後の居場所で、もちろん放課後児童教室として今も色々ありますけど、制度的にやって御殿場市の法域上に力を入れているので、足りなくなったらすぐ作ってという状況の中で、教育でも大変な思いをしていると思いますが、本来はそうではなくて、確かに両親が仕事をしていたりなかなか子ども達が居場所が無いよという意味では、安心安全の中で放課後児童教室とか児童クラブはいいとは思いますが、本当はそうではなくて、地域の公民館もあればコミセンもあるんですよ。それは、そういったものに分散してやっていくということは、すごく大事だと思うんですよ。

私が子どもの時を考えてみると、皆そうだったと思うんですけど、小学校の時に怒られるまで校庭で遊んでいて、門を閉めるぞといわれて、その時は先生方もまだ多少余裕があったかもしれないですけど、殺人だとか学校に対するそういう部分が甘い頃だったかもしれないですけど、色んな問題が起きる前だったので。でも、今放課後児童教室に行くと、子どもたちはなんと宿題をやっているんですよ。考えられないとかすごいなと。はっきり言ってえらいなと思いますけど、子どもの時に宿題をやった記憶がない。私が子どもの時に、家にいない時で宿題をやった記憶がない。家ではもちろんやってましたけど、土日とかサザエさんが終わる頃にしょうがない嫌な時間だなと思いながらやってましたけど、そこは森っこクラブなんかもそうですし、

非常に評価が高いです。

ぜひせっかくな話が出ていますので、正にその通りだと思います。老人クラブもそうだし、婦人会もそうだし、子ども会もそうだし、これだけせっかく確立しているのを我々御殿場市が守っていく必要がある。もう一回これを作り直すなんていったら、絶対にできない。今どこの自治体を見ても、一度壊れちゃったところはまず復活していませんので、今ある御殿場市の強み、それは幸いにして核家族化が他の自治体から比べれば、まだ何とかブレーキがかかっているという部分があるので、やっぱり地域の皆さん大人達が本当に子ども達を見てくれるという思いが強いからこそ、だから真の子育て日本一ということが言えるのであって、その点を全面的に、老人クラブは当然ですけど、我々としても協力したいと思うので、ぜひ推進していただきたいと思います。将来的に私の夢というか本来あるべきだと思っているのが、放課後の子ども達の居場所は公民館であり、コミセンであり、地域のそういったコミュニティの場所であると思っているので、その辺りを将来的には皆さんで考えてやっていきたいなと思います。ですので、老人クラブに対する予算は期待して待っていただきたいと思います。

教育委員

ありがとうございます。財産区議員も市議会議員も離れて、それぞれ色んな人がいることを知っています。今あえて載せてもらっている10款5項1目青少年対策事業の中の一環として、市長から老人クラブの予算を入れてくれるお話をいただいたので、老人クラブでは自分達で道具を備えているんですよ。自分で使うものは自分で買って、年金もあるからお金があるんですよ。ただ例えば、学校でいえば、さきほど申しました独楽やベーゴマ、囲碁、将棋、カルタ、百人一首だとこれも学校でやったことないというのもあると思うんですよ。高根だと一回だけ、毎年恒例でやるわけですよ。高根小学校長先生にお願いしますが、道具もそれなりにあるんですよ。でもやっぱり紐を買ったり、古い独楽でやったりという状況で、できれば老人が行く日には子ども達に学校の道具を使わせるだけでなく、老人クラブで一式揃えて学校へ行こうと、年寄が学校へ行ったらその道具を貸していただいてなんてケチな考えではなくて、お正月のお年玉じゃないけど、そんな額の大きなものじゃなくていいから各学校へ10万円ずつ貯めれば6校あったって60万円とかで、10万円あればこういうのは買えるんですよ。

また、竹とんぼは山之尻の人達が高根小学校のために150から200個くらい作ったんですよ。子どものためにという考えで、寄附をしっかりとってくれる人もいますね。やっぱり年寄も学校から感謝状をもらえると嬉しいんですよ。私はもういないんですけど、欲しい方はいますよ。

余談ですが、よろしく申し上げます。

市長

うちの祖父もよく言っていましたけど、人間いくつになっても褒められたら嬉しいよというのは、その通りだと思うんですね。ですから、その辺は各学校の方で、地域で頑張ってくれているおじいちゃんおばあちゃんに対しては、学校直接でも何でもいいと思いますので、表彰いただければ、気持ちで感謝状ということでお願いします。

教育総務課長

ありがとうございました。ただいまのお話でございますけれども、他の委員さんからこの件について、何かご発言ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、次の委員にいきたいと思います。よろしく願いいたします。

教育委員

よろしく願いいたします。

安全安心という話が出ていましたが、通学路の安全安心という件でいきますと、集団登校は問題ないですけども、数人単位で下校の時に家の近くから枝道に入って行って、一人で自宅へ行くというケースの時に被害に遭うというのがありまして、そういうのを安全安心見守り隊の方々に出してもらってはいるんですけど、家の前まで連れて行くわけにはいなくて、そういうのが頻繁にあると問題ですよというのがあります。

私は富士見原の区長をやっているんですけど、その地域だけじゃないですが、サラリーマン家庭がいるとほとんど昼間は人がいないんですね。いるとすれば高齢者の方なんだけど、そんなに出てこないという中で、町を歩いてみるとスラム街を歩いているような感じで人っ子一人いないところを、小中学生が一人で歩いてくるというようなケースがあります。そういうところは、どういうふうにしたらいいのか父兄の人達も心配しています。先生に聞いてみてもそこをまだ詰めていないんですよという話で、それをどうしていくのかというのが一つあります。これについて、お伺いしたいというのが一件。

もう一件が音楽活動ということで、先ほど委員が言っていたクラブ活動と関連しますが、自分自身音楽活動を小学校4年生の頃から鼓笛隊から始まって、ブラスバンド、吹奏楽と色んなことをやっていて会社のジャズバンドに入らずとやってきました。一つのことをずっとやっていくことに対して、無気力、無感動、無関心というのが高齢者にあるというんですけど、これは若い衆にもあるというような話を聞きまして、クラブ活動って大変だねというのはあるんですけど、続けることに意義があるというのが一つ自分が体験をして言えることです。

先日、初めて教育委員としての活動の中で、北駿地区の小中学生の音楽祭を初めて聴かせていただいたんですけど、感動しました。というのも、普段自分の子どもの活動を見たことも聴いたこともない。サラリーマンをやっていると仕事仕事で追われていく。親の立場から言うとそういうのって、関心を持っていてもその場には行けないというのが事実としてあると思います。そういった中で、ドリームジャズバンドが今年の4月から8月にかけて、世田谷区の区立中学生の希望者を募ってやったわけですけど、ああいう一つのテーマを色んな学校の人達が集まってそれに取り組むというような一つの目標に向かって皆に集中してやっていく。そこですごく才能が芽生えていくという人も結構いるというので、自分としては音楽というのを一つのキーワードにしてやっていくというのはあるんですけど、そのイベントといいますか、そういうのが御殿場市にもあっていいんじゃないかなと。先日そのコーラスを聴いたときにこれはすごいなと、それはコーラスだけでなく吹奏楽とか楽器関係をやっている人はいるんじゃないかな。また、ジャズバンドというのは、ここの地域でもたくさん親しまれていると思うんですけど、そういうのも一つきっかけとして、無気力、無感動、無関心の傾向の子を解消するのが一つの手かなというのはあると思うんですけど、こういったのが御殿場市にもあってもいいんじゃないかなと感じます。以上です。

市長

ありがとうございます。一つは、集団登下校しても最後の部分でというのは、これは親からすると確かに心配な部分はあるかなということで、私なんかもそれは一つあるんですが、そのギリギリまで一緒にいたいというのが、今のところそれしかないのかなと思います。あとは防犯カメラというのも無くは無いですけど、ただ防犯カメラは音声をつけるとちょっと厳しいところがありまして、プライバシーの問題があったりとか、誰がというところがありますが、基本的には警察の方と相談した中でどこかが付けてそれを利用するというのが一番いいと思うんですけどね、それも子ども達を最終的に守っていくという意味においては、必要なことなのかな。例えば、富士見原でいうと246から角のコンビニでしたっけ、あそこは防犯カメラが付いているじゃないですか。意外とあれって、もちろんお店のための防犯カメラでありながら、246をカバーしているんですよ。ですから、大きな事故があった時に活躍していて、今度実は反対側に駒門パーキングエリアの防犯カメラがある。そういう形で増やしていくのがいいのかなと。もう一つは、自販機というかある業者の事業ではあるんですけど、学校に企業が協力をして、学校に防犯カメラを付けるというのがあるんですよ。学校はそういうことでやっていこうかなというのがあるんですけど、本当は街中についても色んな工夫をしながらというところ。

あと一つですね、防犯カメラじゃなくて、我々が真剣にどうしようかと考えているのが、まだ教育委員会や先生方や教育部にも相談していないんですけど、二役でたまた

まいいものを見つけていたものですから、結構薄型でかなり小さくて発信できるものが開発されていて、自治体で試験的に入れているところもあって、そういうものもデータが良ければ取り入れることが大事かな。どこまで来たかという、コンビニとか自宅とかに電波を受信している機械を付けていただくと、子ども側も発信していてそれを受けると、どこに移動しているのかが分かるというもの。もともと本当は認知症の高齢者のために開発されたものなんですけど、そうじゃなくて子ども達に一番いいんじゃないかと。子ども達が不安だということであれば、子ども向けのが一番いいよと伝えたら、実はそういうことで改良してやっている部分もありますということだったので、そういうのも近い将来考えられないかなと思います。それと、もう一つの防犯カメラも含めて相談したいなと思いますので、よろしくをお願いします。

もう一個の音楽に関していえば、例えば太鼓であつたりとか Mt.FUJI 交響楽団とか吹奏楽でやっているようなところもあれば、個人的にやっているようなところもあれば、合唱もあつたりとですね、ぜひイベント的なものが何か一つあってもいいのかなと思うので、そういうことは逆にアイデアをいただきながらやるのがいいかなと思っています。ただ、子ども会とかかなり色々頑張ってくれていたりとか、行事が多かったりとかですね、意外と御殿場も行事が多くて、役員をやりたがらない状況に今陥っちゃっていますので、そういうのを整理して、市でやろうとか地区でやろうというのも今後考えなきゃいけないときに来ているかなと思いますので、また全体として何か出てくればそれはすごく良いことだと思いますので、その時はぜひサックスの演奏をよろしくお願ひしたいと思いますので、またご協力いただければありがたいと思います。以上です。

教育総務課長

よろしいでしょうか。それでは、今5人の委員の方にそれぞれのご意見を伺いまして、市長の方からもお話を伺ったところでございますけども、次に教育長からもこの件についてのご発言をお願いできればと思います。

教育長

今、色んなお話が出てきたわけですけども、その中でちょっと話題に上がったのが、静岡県は実は在学者の一人あたりの学校教育というのが年間に必ず統計が出るんですが、この数字がかなり厳しい状況にありまして、例えば小学校も中学校も全国ワースト3位なんですね。幼稚園に関してはワースト2位。特別支援学校なんてワースト1位です。そのくらいのひどい予算設定しかしていないというのが、現実です。

先ほど市長からもお話があった通り、そういうところで市町がどこまで担うかというところがあって、今回のこの予算の関係の話題もそうなんですけども、どのくらい学校現場の意向が反映されているかという数字にいくつか現れてくるんですが、人

的な予算というのは本来は県が担うべきものであるというのが原則だろうと思います。県費負担職員という形で入っていますから、本来そうなるんですが、それが対応しきれていない上に学校ニーズとして様々な予算措置をしてくださっている。特に御殿場市の場合には市長さんのお考えもあって、子どもへの関わりというのは大変大きな存在だろうと思います。

私の立場でいうところの教育投資というような言い方をしたときに、こういうところに数字として出てきているのかなと思っています。これは常々市長が言われていることですが、市民のための行政という言葉があるんですが、私は教育行政を担っていますので、教育委員会の教育行政の基本姿勢というのは、人間の人間による人間のための行政というんでしょうか。こういう基本だなと思います。ですから、マンパワーにこだわるわけじゃありませんけども、そこに帰着するのはどうしてしょうがないかなというのがあります。いくつか事業立てで先ほど色々説明がありましたけども、例えば夢創造事業的なものというのは、学校独自が色んな企画をして、なおかつ、子どもに反映できるという意味では、費用対効果的な発想でいえば、かなり大きな事業であろうと思っています。約300万円弱の予算ですが、この数字も各学校で使い方が工夫されているという意味合いでは、御殿場市に誇れる大きな事業だと思っています。

先ほどお話がありましたけども御殿場市の場合には、まちづくり人づくりといった時に、その基本に二宮金次郎さんの報徳の精神というのが、必ずどこかにあるんですよ。直接影響を受けたところというのは限られているんですが、そうじゃないところにも報徳という言葉を使ったところもあるわけですから、地元の先ほどのような施設等、色んな所に支援してくださっている精神の根幹には、この報徳の精神があるんだろうなと思っています。

ですから、財産区があるなしに関わらず、それぞれの地区における法人の皆様方が子どもへの投資や教育への投資については、躊躇せずにやってくださっている姿勢について、本当に感謝しているところです。それが御殿場市の誇れる大きな財産であるのかなと思っています。

今後は、工事とかそういうことを含めて、ICTの整備や給食の環境もそうですが、諸々のものがつながっているわけですけども、究極は何かといったら、子ども達が健やかでたくましく成長する学校生活を送るための人的物的な環境整備を行政が担うべきだろうと。これに尽きるのかなと思っていますので、それがバランスを考えてやらなきゃいけないことだと充分承知しておりますので、目の前の子どもの様子を見て、ここはどうしても手を打たなければいけないというのは喫緊の課題としてやりますけども、少し先を見て、子ども達が大人になった時にこの御殿場市を捨てるんじゃないで、御殿場市を育てる子どもになってほしいというのが究極の願いで、今予算にも少しでも反映できればうれしいなということと思っています。

実際には、これまでの流れからバランスを取って、手厚くやってもらっていると自覚していますが、そんな方向に私たちも頑張ってもっていきたいと思っております。以上でございます。

教育総務課長

ただいま教育長からもご発言いただきましたけども、一番目のテーマで将来の予算についてお話をいただいたわけですけども、市長から何かお話がございましたらお願いいたします。

市長

先ほどお話をさせていただいた部分があるんですが、やっぱり10款1項3目を見てもらいたいというところが私の思いであって、正に教育長からお話があった人間の人間による人間のためのということだと思いますけど、やっぱりマンパワーが必要なんですよね。教育は物でもなければ、何でもないと思うんですよ。最終的には、先生の力または先生ができない部分を補う力というのは、人間でしかないとか人でしかないというのは、どうしてもあると思うので、それに補助的に物があったりとかできるだけいい環境があったりとかそういうことだと思いますので、先ほど老人クラブの話も含めて、または何かイベントだとかの全部が、子どもがどういうふうに大きくなっていくのかなというのに繋がっていくと思うので、その辺をぜひ部活動も含めて、総合的に最終的に子ども達にと。それには、先生が先生としてやれる時間を作ることが非常に重要なことだと思いますので、引き続き平成30年度についてもそれ以降についても、この御殿場市としてはそういったところに予算を反映させていきたいと思っておりますので、ぜひその点をご理解いただいて何よりもそのことも市民の皆さんに伝えてほしいというのがすごく思いましたので、その点はお願いしたいと思います。以上です。

教育総務課長

市長ありがとうございました。ただいま皆様方から様々な分野におきましての意見交換をしていただきました。まだまだこの辺りにつきまして、意見交換していただければと思いますが、時間の都合もございまして、1点目のテーマにつきましては、この辺りとさせていただきます、2点目のテーマであります「真の子育て支援 日本一のまち」をめざす御殿場市の教育への取り組みについてを議題といたします。

こちらにつきましては、当市の教育を進める上での道しるべともなっていると思っておりますけれども、この件につきまして市長から日頃感じていること等をお話いただきまして、それに対しまして、教育委員の皆様からもご意見をいただくという形にさせ

ていただきたいと思います。

恐縮ですが、市長からこの件についてのお考えをお願いいたします。

市長

重なる部分が多々あると思うんですけど、どうしてもかかる予算というのは今言ったようにできるだけ人間力の方にお金をかけるようにと。その上で、建物というのもバラつきがあると思うので、それは計画性を持ってやっていくことだと思いますが、現場においてということになると、いじめ防止であったりとか先生方の力が非常にうまくいっている状況であると思いますので、それを引き続き、やっていく方向で、それはお金がかかるかということはもちろん先生一人ひとりの時にはかかるかもしれませんが、そういうことではなくて、実際に人間力でやっていくというのが大事なことかなと思います。だからこそ、先生に余裕を持って教育ができること、威厳を取り戻すこと、そういうことを市民の皆さん一人ひとり理解してもらおうというか、そういう状況に御殿場市はあるよというのを分かってもらおうことが、ひいては教育現場にも跳ね返ってくるんじゃないかと思いますので、その辺だと思います。

教育総務課長

どうもありがとうございました。市長の方からは、一番目のテーマの中で、真の子育て日本一を目指すまちづくりのための色々な思いを語っていただいたところでございます。重複する部分はあったかと思いますが、ありがとうございました。

これらにつきまして、教育委員の皆様からもそれぞれご発言をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

教育委員

私の方からは、今度新しく小学校の方でも導入されます英語教育について、ちょっとお聞きしたいと思います。

中学校に入ってからの本格的な英語教育に向けて、小学校でも英語教育というものが導入されていきます。その時に、これもまた一つ教員の多忙化や負担に繋がってくるのではないかなと思いますが、子ども達にとっても初めてのことでありますので、本格的な英語教育に向けて、英語嫌いを作らないように小学校の方で進めていくというのは、非常に難しいことだと思いますが、ぜひ学校の方でもお願いしたいのですが、できるだけ英語嫌いを出さないようにしてください。私は英語が嫌いでしたので、ぜひよろしくお聞きしたいと思います。

市長

私も英語が嫌いというか、中学校1年生だった時に、英語を習ったことないのでこ

これからスタートだと思ったんですが、皆英語ができたので、それが頭にきてこんなものやられるかと思って、あとで大学受験で大変苦勞した思い出がありますので、英語が嫌いにならないように、私は苦い経験があったので、子ども達は2歳の時から英語だけはやらせているという、その教訓を活かしております。先生方よろしくお願ひします。

教育委員

聞くとところによると、また英語のお話なんですけど、小学校でこれから600から700ぐらいの単語を習得するようになるというのをどこかで読んだことがあるんですけども、やはり中学校の先生もそういうところで差がついてきた子ども達を受けるといふことで、中学校の先生方のご指導にも影響が出てくるのかなというふうに感じますが、ぜひぜひ楽しく子ども達には英語を学んでもらいたいなど。そのためには、ネイティブスピーカーといいますか、そういう本物に触れる機会の提供も必要じゃないかなと思います。

私が以前、印野小学校にお世話になっていた時に、試みとして総合的な学習の中で英語を小学校で取り組んだことがありましたが、その時に地域の方がとても理解してくださって、学校に一人ALTの先生を常駐してくださった時期があったんですけども、行事も給食も皆一緒に日本語が得意でない先生と子ども達が一緒に英語を私達よりはるかにきれいな発音で子ども達が話したということがありますが、これは夢のような話ですけども、また一つの例としてお話させていただきました。子ども達には楽しく勉強してほしいなと思っております。

教育長

今のお話は特別な例ですが、ALTが一つの学校に入ったというのは、先駆けてやってもらったんですが、その様子を見た上で市として全体に拡充しようかという形でスタートしたという経緯があるんです。ですから、その先駆的な役割を果たしたのが印野小学校でした。あの良さが、そのまま市内で拡充できるようにということで、これも財産区に色々とお世話になっているんですけども、拡充したのはそれがスタートで、今度は違った形になりますから、今の話題ならば中1ギャップを英語を含めて無いようにしたいなというところが願ひとしてありますので、小学校での英語の学習、あるいは外国語活動も含めて考えていかなければいけない。

もう一つは、小学校1年に上がる時の、小1プログラムと呼ばれているものですが、幼稚園、保育園関係無しに年長の子どもの姿を小学校の先生と共有しましょうよというところがありますので、幼児教育の大切さといったときに、その受け皿としての小学校1年生のそれも考える。だから、小1プログラムと中1ギャップというこの二つはキーワードとして進めていかなければならないと思います。

教育委員

よろしいでしょうか。今のお話の中でALTがモデル的、試験的な導入ということでお話がありましたが、そういうことに関連していると思うんですが、教育特区についてどのようなお考えがありますでしょうか。

市長

特に、特区ということは考えてないですけど、いじめ防止の基本計画であったりとか、既に出来ることは先にやっているということだと思いますし、先駆けて試験的にやれることももちろんあったと思うんですよ。そういうのって、たまたま私がいた付属小学校や中学校がやるんですよ。試験的にやったことが良かったっていうのは、別に特区という形を取っても取らなくても、ALTもそうですし、電子黒板も他の自治体より早く入れさせていただいて、あれも玉穂などから試験的にやらせていただいて、増えているところもある。また何かあれば積極的にやっていきたいと思います。

教育部長

一つだけよろしいでしょうか。ALTの関係だけご説明を事務方からさせていただきます。平成30年度予算ではないですけど、英語教育が平成32年度から本格実施される中で、できれば平成31年度から英語のALT増員を3ヶ年実施計画上は計画しておりますので、その辺はご承知いただければと思います。基本的には、3名ほど増員したいと考えております。以上であります。

教育総務課長

ありがとうございました。特に、英語教育について何点かお話をいただいたようでございます。また英語教育は、次期学習指導要領の中でも確立した位置づけがされている関係がございまして、教育部長からもそれに対する対応ということでのご説明をさせていただいたところでございます。

英語教育以外で、皆様方からこの件に関してご意見等あればご発言いただきたいわけでございますが、いかがでしょうか。

それでは、活発なご意見ありがとうございました。主には、1点目の教育予算の中で語っていただいたのではないかなと思っております。本日皆様方からいただきましたご意見等を、今後の教育委員会としても反映させるように努めてまいりたいと思っております。

5 閉会

教育総務課長

それでは、市長、教育委員の皆様、長時間に渡る、誠に協議ありがとうございました。以上をもちまして、第2回総合教育会議を終了させていただきます。

午前11時43分閉会